

- トヨタ自動車、「プリウス」のハイブリッドシステムに不具合があるとしてリコール 09年3月23日～14年11月12日に生産した124万9662台
ハイブリッドシステムにおいて、異常判定時の制御プログラムが不適切な為、急加速時等の高負荷走行中に昇圧回路の素子が損傷した場合に、フェールセーフモードに移行すべきところ、移行できないことがある。その為、警告灯が点灯し、ハイブリッドシステムが停止して、走行不能となる恐れがある。
トヨタでは、2014年2月、プリウスのハイブリッドシステムに起因する不具合が308件起きたことを受け、99万7000台を対象にリコールを届け出た。その後、2015年7月に「プリウスα」及びダイハツ「メビウス」にも同様の不具合が78件発生したとして、34万2401台を追加リコール。今回、改善措置に一部不備があったとして、その内容を修正して3度めのリコールを届け出た。
- マツダ、「アクセラ」ハイブリッド車のパワーマネジメントコントロールコンピュータに不具合があるとしてリコール 13年10月11日～14年10月28日に生産した9335台
ハイブリッドシステムにて、異常判定時の制御プログラムが不適切な為、急加速時等の高負荷走行中に昇圧回路の素子が損傷した場合に、フェールセーフモードに移行すべきところ、移行できないことがある。その為、警告灯が点灯し、ハイブリッドシステムが停止して、走行不能となる恐れがある。
- アウディジャパン、ランボルギーニ「アヴェンタドール」5車種のエンジンコントロールユニットに不具合があるとしてリコール
燃料噴射を制御するエンジンコントロールユニットのプログラムが不適切な為、減速後の低回転時に燃料噴射量が不足し、エンジン回転数が低下することがある。その為、低速走行時にエンジンストールが発生することがある。 11年8月29日～18年4月26日に輸入した735台
- 日野自動車、「レンジャー」のブレーキ及び排出ガス浄化装置に不具合があるとしてリコール 15年4月7日～18年9月4日に生産した1万5284台
ブレーキについては、エア制御弁の排気部構造が不適切な為、雪道走行時に排気部に水分が付着すると、冷結して排気部が閉塞することがある。その為、ブレーキペダルを戻してもエアが排出できず、ブレーキが引きずり、最悪の場合、火災に至る恐れがある。排出ガス浄化装置については、添加弁の燃料配管の固定方法が不適切な為、雪道走行時に配管周辺部に堆積した氷塊の重みで、配管が変形したり、折損することがある。その為、燃料が漏れるとともに排出ガス浄化装置が作動しなくなる恐れがある。
- アウディジャパン、「A4」等計10車種の補助クーラントポンプの不具合への対応策が不十分だったとしてリコール 11年12月6日～17年2月10日に輸入した2万5265台
2017年6月29日、これら10車種について、エンジン冷却装置の補助クーラントポンプの異常を検知するエンジンコントロールユニット(ECU)のプログラムが不適切な為、異物等によりポンプの作動が妨げられた際、電源がポンプに流れ続け、ポンプ及びポンプの配線が発熱して溶損、最悪の場合、火災に至る恐れがあるとしてリコールを届け出ている。しかし、不具合の原因は、補助クーラントポンプの湿度対策が不十分であることもわかり、再度リコールを届け出た。
- トヨタ自動車、「クラウン」のヘッドライトに不具合があるとしてリコール 12年12月13日～15年9月18日に生産した4654台
ヘッドライトについて、タクシー用途等で想定を超えた長時間点灯を続けた場合、バルブからの熱と紫外線により反射板のアルミ蒸着が剥離することがある。その為、そのまま使用を続けると、集光不足となり、光度が徐々に低下し、最悪の場合、保安基準第32条を満足しなくなる恐れがある。
- アウディジャパン、「A4 1.4 TFSI」の燃料パイプに不具合があるとしてリコール 16年9月15日～17年7月13日に輸入した1175台
燃料パイプのエンジンへの取付作業が不適切な為、ボルトの締め付けトルクが不足しているものがある。そのため走行振動等によりボルトが緩み、最悪の場合、燃料が漏れる恐れがある。
- プジョー・シトロエン・ジャポン、プジョー「2008」「208」のロールオーバーバルブに不具合があるとしてリコール 15年6月16日～8月24日に輸入した162台
フューエルタンク内に取り付けられている車両横転時に燃料の逆流を防止するロールオーバーバルブにおいて、製造工程での溶接温度が不適切な為、樹脂製のロールオーバーバルブに穴が開いているものがある。その為、事故等で車両が横転した際に燃料が漏れ出す恐れがある。
- スバル、「インプレッサ」等計9車種の無資格者による完成車検査が行われていたことに関連し追加リコール 17年12月14日～12月29日に生産した6124台
車両製作工場の完成検査で、完成検査工程における合否判定が不明確な可能性があるため、追加リコールを行った。
- メルセデス・ベンツ、メルセデスAMG「Sクラス」等計3車種の車線逸脱防止支援装置に不具合があるとしてリコール
車線逸脱防止支援装置(アクティブレーンキーピングアシスト)のマルチパーパスカメラにおいて、タイヤの動的半径設定が不適切な為、車速の算出が不正確であることが判明。その為、高速走行時に車線を逸脱しても警告の表示やブレーキ制御の介入が行われない。 17年4月13日～18年3月15日に輸入した163台
- メルセデス・ベンツ日本、「Cクラス」のプラグインハイブリッド車の「C350e」「C350eステーションワゴン」の電気配線に不具合があるとしてリコール
電気配線において、部品組み付け時の作業指示が不適切な為、車両フレームに電気配線が干渉しているものがある。その為、走行時の振動等で被覆が削れ、車両フレームにショートし、最悪の場合、火災に至る恐れがある。 15年7月10日～16年12月17日に輸入した457台
- フォルクスワーゲングループジャパン、「ザ・ビートル」のアースケーブルに不具合があるとしてリコール 11年11月25日～14年10月29日に輸入した2万0945台
エンジンとボディ間に装着されているアースケーブルの長さが不適切な為、走行中の振動などによりアースケーブルが破断するものがある。その為、エンジンの始動装置のアース回路が遮断され、エンジンが始動できなくなる恐れがある。
- 日野自動車、「プロフィア」のリーフ用ストッパに不具合があるとしてリコール 11年1月28日～18年1月19日に生産した415台
リーフ・エア併用式サスペンションにおいて、リーフ用ストッパの材質が不適切な為、段差乗り越え時等でリーフとストッパが接触した際にストッパで十分荷重を吸収できず、ストッパ固定用シャフトに過大な荷重が加わることがある。その為、使用過程で当該シャフトが疲労折損し、ストッパ及びシャフトが脱落する恐れがある。